

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業
(オリンピック・パラリンピック教育地域拠点)」(令和2年度)

実施報告書



岩手県教育委員会

令和3年2月

目 次

事業概要

I	事前セミナー	2
II	授業実践報告	
1	盛岡市立向中野小学校	4
2	矢巾町立不動小学校	5
3	北上市立鬼柳小学校	6
4	北上市立口内小学校	7
5	遠野市立遠野北小学校	8
6	山田町立船越小学校	9
7	二戸市立御返地小学校	10
8	盛岡市立黒石野中学校	11
9	花巻市立湯口中学校	12
10	大船渡市立大船渡中学校	13
11	大船渡市立末崎中学校	14
12	大船渡市立綾里中学校	15
13	山田町立山田中学校	16
14	宮古市立河南中学校	17
15	岩泉町立小川中学校	18
16	岩手県立不来方高等学校	19
III	実践報告会	20
IV	オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート	22

《推進校一覧》

No	校種	学 校 名
1	小学校	盛岡市立向中野小学校
2		矢巾町立不動小学校
3		北上市立鬼柳小学校
4		北上市立口内小学校
5		遠野市立遠野北小学校
6		山田町立船越小学校
7		二戸市立御返地小学校
8	中学校	盛岡市立黒石野中学校
9		花巻市立湯口中学校
10		大船渡市立大船渡中学校
11		大船渡市立末崎中学校
12		大船渡市立綾里中学校
13		山田町立山田中学校
14		宮古市立河南中学校
15		岩泉町立小川中学校
16	高等学校	岩手県立不来方高等学校

I 事前セミナー

【開催概要】

1 目的

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業（オリンピック・パラリンピック教育地域拠点）」（令和2年度）」の開始にあたり、本事業の概要説明及び各推進校におけるオリンピック・パラリンピック教育の取組に向けた意見交換・協議を行い、推進校の効果的な事業展開に資することを目的とし、開催したものである。

2 主催

岩手県教育委員会

3 協力機関

(1) 早稲田大学 オリンピック・パラリンピック教育研究センター

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業(全国中核拠点)」岩手県担当

(2) 県文化スポーツ部スポーツ振興課

(3) 県文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック推進室

4 期 日

令和2年7月13日（月）

5 会 場

岩手県営武道館

住所：盛岡市みたけ 3-24-1 TEL：019-641-4577

6 参加者

(1) 推進校担当教員（各校1名）

(2) 教育事務所担当者

7 日 程

(1) 挨拶（13:20～13:30）

岩手県教育委員会事務局保健体育課 総括課長 清川 義彦

(2) オリンピック・パラリンピック教育とその進め方（13:40～14:30）

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター 研究員 岡田 悠佑 氏

(3) パラリンピック競技体験（14:40～15:40）

岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課 主査スポーツ振興専門員 佐藤 慎二 氏

(4) 意見交換・協議「自校のオリパラ教育の推進計画について」（15:50～16:20）

(5) 連絡（16:20～16:30）

(6) 閉会

【内容】

令和2年7月13日（月）、岩手県営武道館において本県のオリパラ教育推進校として選定された小学校・中学校・高等学校、計16校の担当教職員及び推進校に対して助言を行う各教育事務所保健体育担当指導主事の参加により、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業（オリンピック・パラリンピック教育地域拠点）」（令和2年度）事前セミナーを開催した。

講師として早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの岡田悠佑研究員を招き、本事業の概要や学校におけるオリパラ教育の意義、これまでの実践事例をもとにした効果的なオリ

パラ教育の進め方等について説明があり、学校で活用できるオリンピックやパラリンピックの指導参考教材や映像教材について紹介していただいた。

パラスポーツ体験では、岩手県文化スポーツ部スポーツ振興課主査スポーツ専門員の佐藤慎二氏に講師をしていただき、ボッチャとゴールボールの体験を行った。ボッチャのルール、ゲーム展開の仕方、ランプを使用する補助の仕方などを学び、各推進校の担当教員がそれぞれの学校でパラスポーツの体験授業を指導するきっかけとした。

意見交換・協議では、教育事務所単位のグループに分かれ、保健体育担当指導主事のコーディネートのもと、各推進校が今年度どのようなオリパラ教育を計画しているか、取組の見通し等について意見交換を行った。



Ⅱ 推進校視察報告

1 【盛岡市立向中野小学校】

(1) 実施日時 令和2年11月17日(火) 13時30分から14時40分

(2) 対 象 【講演・実技】2年生 132名

(3) 派遣講師 芦田 創 氏 (パラリンピアン) 大阪府出身

(陸上競技 2016年 リオパラリンピック 4×100m R銅メダル、走幅跳 12位)

(4) 事業内容 (講演・実技)

13:20 ～ 開会及び講師紹介

13:23 ～ 講演「より遠くへ」

14:00 ～ 休憩、準備

14:05 ～ 実技

14:35 ～ 写真撮影

14:40 終了

(5) 講演内容

- ・ 5歳の時に「デスマイオド腫瘍」という病気になり、15歳まで治療を続けた。自分にとっては、小学校に通うことは、当たり前のことではなかった。自分が好きなことにチャレンジできないことが悔しかった少年時代であった。
- ・ 自分が好きなことをやろうと思って選んだのが「走る」こと。走っているうちに、何と病気が治ってしまった。
- ・ みんなには「自分の好きなことを人生でやって欲しい」と願っている。それぞれ好きなことは違うけれど、自分らしく好きなことをがんばることが大きなエネルギーになる。

(6) 実技内容

- ・ 速く走るための走り方について
ポイントは2つ「①よい姿勢を意識すること」と「②一生懸命走ることをやめること。」
- ・ 走りは、片足ジャンプの連続。正しいフォームでジャンプすること。
①マリオジャンプ → ②バウンディング → ③走の動きへ



2 【矢巾町立不動小学校】

(1) 実施日時

令和2年11月11日(水) 13時55分から15時40分

(2) 対 象

4年生 34名

(3) 派遣講師

初瀬 勇輔 氏 (パラリンピアン)

(柔道 2008年北京パラリンピック日本代表) 長崎県出身

(4) 事業内容 (講演・実技)

13:55 ~ 開会及び講師紹介

14:00 ~ 講演 (14:30~質疑)

14:55 ~ 実技

15:30 ~ 感想発表

15:35 ~ 写真撮影・講師見送り

15:40 終了



(5) 講演内容

演題「行動することでせかいを変える」

- ・ パラリンピック競技及び視覚障害者柔道のおもしろさ
- ・ 障害者の人口とパラリンピックのメダル
- ・ 障害者の無限の可能性 (リオパラリンピック開催時に作成されたCMから)
- ・ 夢や目標をもつことの大切さ (自身の障害を乗り越えた体験から)
- ・ 東京で行われるパラリンピック大会の意義とみんなが楽しめる社会に向けて

(6) 実技内容

「アイマスク体験」

※2人組になり目かくした状態で様々な歩行を体験し、視覚障害者の気持ちを理解する。

- ・ 歩行体験
- ・ 誘導歩行体験



3 【北上市立鬼柳小学校】

- (1) 実施日時 令和2年11月16日(月) 14時00分から15時35分
(2) 対象 5・6年生 89名
(3) 派遣講師 市橋 有里 氏 (オリンピック)
(陸上競技 2000年 シドニーオリンピック女子マラソン代表) 徳島県出身

(4) 事業内容 (講演・実技)

- 14:00 ~ 開会、講師紹介
14:00 ~ 講演
14:35 ~ 質疑応答
14:50 ~ 実技
15:30 ~ 写真撮影
15:35 終了



(5) 講演内容

演題「チャンスをつかむ3つの方法」

- ・ 出会いを大切にすること (陸上競技との出会い)
- ・ 周りの人に感謝すること
- ・ 人よりも1分1秒努力すること

(6) 実技内容

「走の基本トレーニング」「リレー」



4 【北上市立口内小学校】

(1) 実施日時 令和2年11月5日(木) 13時05分から14時40分

(2) 対 象 【講演・実技】全校児童 39名

(3) 派遣講師 根木 慎志 氏 パラリンピアン

(2000年 シドニーオリンピック車椅子バスケットボール出場) 岡山県出身

(4) 事業内容 (講演・実技)

13:05 ~ 開会、講師紹介

13:10 ~ 講演

13:45 ~ 質疑応答

13:55 ~ 実技 (ボッチャ体験)

14:35 ~ 写真撮影

14:40 終了



(5) 講演内容

演題「出会った人と友達になる」

- ・ オリンピック⇒世界を平和にしたい。
パラリンピック⇒人はそれぞれ違うことを尊重しよう。
- ・ 「友達」とは、「相手のことを自分のことのように考えられる人」そういう友達をどんどん増やしてほしい。
- ・ 出会った人=友達。これまでに会った友達もこれから会える友達も大切にしたい。

(6) 実技内容

「ボッチャ体験」



5 【遠野市立遠野北小学校】

- (1) 実施日時 令和2年11月10日(火) 13時55分から15時30分
- (2) 対象 4年生47名
- (3) 派遣講師 太田 渉子 氏 (パラリンピアン) 山形県出身
(2006年トリノパラリンピック バイアスロン 12.5 km立位銅メダリスト
2010年バンクーバーパラリンピック クロスカントリー12.5 km銀メダリスト
2020年東京パラリンピックではパラテコンドーの出場を目指す)

(4) 事業内容 (講演・実技)

- 13:55 ~ 開会及び講師紹介
13:50 ~ 講演 「挑戦するって楽しい」
14:35 ~ 質疑応答
14:40 ~ 休憩、準備
14:45 ~ 実技 テコンドー体験
15:25 ~ 写真撮影
15:30 終了



(5) 講演内容

○クイズ

- ・Q1 パラリンピックはいつから？⇒1960年

「パラ」は、「パラレル (平行)」からきたもの。健常者も障がい者も一緒になって取り組もうという意味がある。

- ・Q2 私のとったメダルはいくつでしょう？⇒100個以上

○できないことをできるようにするために努力や工夫すること

○たくさんの友達に恵まれた。そのおかげもあって、困難があってもあきらめないで楽しく挑戦できた。

(6) 実技内容

- ・キックの仕方
- ・ミット打ち体験



6 【山田町立船越小学校】

(1) 実施日時 令和2年11月30日(月) 9時30分から11時25分

(2) 対象 5年生24名

(3) 派遣講師 根木 慎志 氏 (パラリンピアン)

(2000年シドニーパラリンピック車いすバスケットボール日本代表主将)

(4) 事業内容 (講演・実技)

9:30 ~ 開会及び講師紹介

10:05 ~ 講演「出会った人と友達になる」

10:40 ~ 実技 車いすバスケットボール、
ボッチャ体験

11:20 ~ 写真撮影

14:25 終了



(5) 講演内容

- ・ 高校3年生の時に交通事故に遭い下半身不随となった。障害者となる理由は様々である。
(先天性・交通事故・戦争等)
- ・ なぜ、オリンピック・パラリンピックが開催されるのか?
オリンピック — 当時は世界中で戦争をしていた → スポーツを通じて世界平和
パラリンピック — // — 怪我人が多数 — どうしたら戦争で傷を負った人達が元気になるか → スポーツを通じて元気になろう
(英国の医師：ルート・ヴィヒ・グッドマン)
- ・ 世の中は多様である。みんな違うけれど楽しい。
- ・ できることは素晴らしい。できないことは恥ずかしいことではない。できないことでも楽しんでやれば良い。
- ・ パラリンピックは一見、できそうもないことができるもの。世の中は工夫がいっぱいで不可能を可能に変えることができる。
- ・ 障害は障害ではない → 障害は人が作っているもの。

(6) 実技内容

- ・ ボッチャ体験



7 【二戸市立御返地小学校】

- (1) 実施日時 令和2年12月17日(木) 9時30分から11時25分
(2) 対象 3～6年生 17名
(3) 派遣講師 芦田 創 氏 (パラリンピアン) 大阪府出身
(陸上競技 2016年 リオパラリンピック 4×100m R銅メダル、走幅跳 12位)

(4) 事業内容 (オンラインによる講演・実技)

- 9:30 ～ 開会及び講師紹介
9:35 ～ 講演「より遠くへ」
10:15 ～ 休憩、準備
10:20 ～ 実技「速く走るためのコツ」
11:15 ～ 写真撮影
11:25 終了

(5) 講演内容

「より遠くへ」

- ・ 自身の障害の発症と闘病について
- ・ 陸上競技との出会いについて
- ・ 好きなこと、やりたいことを見つけ、挑戦することの大切さ
- ・ 夢を思い描き表現すること、自分の可能性を信じて行動していくこと
- ・ 小さな目標を積み重ね、一つずつ壁を乗り越えていくこと
- ・ 夢を見る、夢を語る、夢を追いかける、夢を叶える
- ・ 夢が叶わなくても、そこに向かって挑戦していく過程が財産となり、人として成長していくことができること

(6) 実技内容

「速く走るためのコツ」

- ・ 走ることは、片足ジャンプの連続動作
- ・ 背筋を伸ばし、姿勢を良くして弾んでいくこと
- ・ 腕は前後に、大きくタイミングよく振ること
- ・ ケンケンをトレーニングすることで脚が速くなること



8 【盛岡市立黒石野中学校】

(1) 実施日時

令和2年11月12日(木) 9時50分から11時40分

(2) 対 象

2年生 153名

(3) 派遣講師

初瀬 勇輔 氏 (柔道 2008年北京パラリンピック日本代表) 長崎県出身

(4) 事業内容 (講演・実技)

9:50 ~ 開会及び講師紹介

9:58 ~ 講演 (10:30~質疑)

10:50 ~ 実技

11:30 ~ 全体記念写真撮影

11:40 終了

(5) 講演内容

演題「行動することでせかいを変える」

- ・ 自身の障害と柔道との出会い
- ・ 障害の受容と意識の変化について
- ・ 日本の障害者の数と支援のための社会制度について
- ・ 「個人モデル」から「社会モデルへ」障害を生み出すのも無くすのも社会次第
- ・ 共生社会、誰もが活躍できる社会を目指して

(6) 実技内容

「視覚障害体験」

※2人組になり、タオルやアイマスクで目かくしをした状態で様々な歩行を体験し、視覚障害者の気持ちを理解する。

- ・ 歩行体験
- ・ 誘導歩行体験



9 【花巻市立湯口中学校】

(1) 実施日時 令和2年11月19日(木) 9時30分から11時20分

(2) 対象 2年生 35名

(3) 派遣講師 芦田 創 氏 (パラリンピアン) 大阪府出身

(陸上競技 2016年 リオパラリンピック 4×100mR銅メダル、走幅跳12位)

(4) 事業内容(講演・実技)

9:30 ~ 開会及び講師紹介

9:33 ~ 講演「より遠くへ」

10:10 ~ 休憩、準備

10:30 ~ 実技「速く走るためのコツ」

11:10 ~ 写真撮影

11:20 終了



(5) 講演内容

「より遠くへ」

- ・ 自身の障害の発症(デスモイド腫瘍)と闘病について
- ・ 好きなこと、やりたいことを見つけ、挑戦することの大切さ
- ・ 夢を思い描き表現すること、自分の可能性を信じて行動していくこと
- ・ 小さな目標を積み重ね、一つずつ壁を乗り越えていくこと
- ・ 夢を見て、夢を語り、夢を追いかけ、夢を叶えるために努力をすることのすばらしさ
- ・ 夢が叶わなくても、そこに向かって挑戦していく過程が財産となり、人として成長していくことができること

(6) 実技内容

「速く走るためのコツ」

- ・ 片足でジャンプすることの連続した動作が走るということ
- ・ 姿勢を良くして弾んでいくこと(背筋が伸びた状態)
- ・ 腕を大きく振ることで、走るための大きな力が生まれる
- ・ もも上げの正しいやり方(基礎)を覚えて、繰り返しトレーニングすること



10 【大船渡市立大船渡中学校】

- (1) 実施日時 令和2年12月1日(火) 9時45分から11時35分
- (2) 対象 3年生51名
- (3) 派遣講師 中村 真衣 氏
2000年シドニーオリンピック
100m背泳ぎ 銀メダリスト
400mメドレーリレー 銅メダリスト



- (4) 事業内容(講演)
 - 9:45 ~ 開会及び講師紹介
 - 9:47 ~ 講演「栄光までの道のり」
 - 10:37 ~ 質疑応答
 - 10:55 ~ クイズタイム
 - 11:25 ~ 写真撮影
 - 11:35 終了

(5) 講演内容

競技を始めるきっかけは様々あるが、自身は母親が水泳選手であったため、4歳から水泳を始めた。小学生時代は新潟県内ではダントツで速かった(当時はバタフライ選手)が、全国大会では決勝にも残ることが出来ないレベルだった。 → 練習嫌い

当時は水泳を辞めようと思ったがコーチに言えず、バタフライではなく背泳ぎなら頑張れると言ってしまった。 ➡ 人生の転機 ➡ 背泳ぎでオリンピックメダリスト

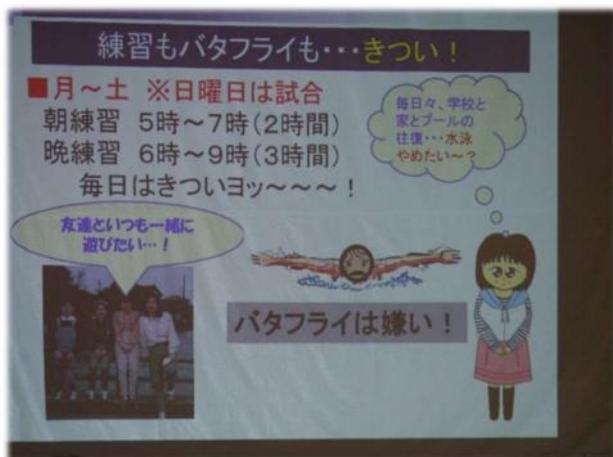
シドニーのメドレーリレーの銅メダルはとても感慨深いものであった。エースとして臨んだ自身は不本意な泳ぎながらも、仲間が本当に頑張ってくれた。

➡ 仲間がくれた最高のプレゼントだった。

(6) 質疑応答・オリパラクイズ

自分の弱い部分を補うだけでなく、強い部分も自信を持って伸ばして行くことが重要である。

➡ 「失敗を恐れず、失敗を受け入れることが重要、恐れずにチャレンジ」



11 【大船渡市立末崎中学校】

- (1) 実施日時 令和2年11月13日(金) 9時45分から11時35分
(2) 対象 【講演】全校生徒68名 【実技】第2学年・第3学年45名
(3) 派遣講師 市橋 有里 氏(オリンピック)
(陸上競技 2000年 シドニーオリンピック女子マラソン代表)

(4) 事業内容(講演・実技)

- 9:45 ~ 開会及び講師紹介
10:35 ~ 講演・写真撮影(体育館)
10:45 ~ 休憩、準備
10:55 ~ 実技「走の基本」(校庭)
11:35 終了



(5) 講演内容

「チャンスをつかむ3つの方法」・写真撮影

講師自身の経験を振り返り、チャンスをつかむためには、以下の3つが大切であることをお話しいただいた。

- ・あきらめないこと

中学校卒業後、日本陸上競技連盟主導で誕生した陸上のクラブチームに所属するにあたり、何度も申し込み、入団テストを受けるに至ったこと、そして最後は実力で入団を勝ち取ったこと。

- ・出会いを大切にすること

学生時代は人間関係で悩むこともあったが、その経験も自分の人生に活かされていること。

- ・周りの人に感謝すること

親や友人等、支えてくれる人への感謝を忘れないこと。

(6) 実技内容

走の基本トレーニング



12 【大船渡市立綾里中学校】

① 実施日時 令和2年11月11日（水） 10時45分から12時35分

② 対 象 全校生徒42名

③ 派遣講師 太田 渉子 氏（パラリンピアン）

2006年トリノパラリンピック

スキー競技（バイアスロンロング 12.5km）銅メダル

2010年バンクーバーパラリンピック

スキー競技（クロスカンリースキークラシカルスプリント 1km）銀メダル

2014年ソチパラリンピック

スキー競技出場

④ 事業内容（講演・実技）

10:45 ～ 開会及び講師紹介

10:50 ～ 講演「挑戦って、楽しい」

11:35 ～ 休憩、準備

11:45 ～ 実技「テコンドーの蹴り技体験」

12:25 ～ 写真撮影

12:35 終了



⑤ 講演内容

- ・ 幼い頃は他者との違いが恥ずかしく、いつも手を隠していたが「意外と人は見ていない」ということに気が付き、気にしなくなった。逆に「障がいののおかげで人に覚えてもらいやすい」とポジティブに考えることができるようになった。
- ・ 自分の限界を自分で作らないことの大切さを、憧れの選手から学んだ。
- ・ 高校2年生の時にスキー留学を経験した際、言葉の壁が大きく英語の勉強の重要性を強く感じた。
- ・ 【挑戦する力】2020東京パラリンピック大会からの新競技パラテコンドーに2018年から本格的に挑戦 → 同大会の日本代表に内定

⑥ 実技内容

テコンドーの基礎的な技である【前蹴り】【前回し蹴り】【後ろ回し蹴り】【かかと落とし】の4種類の実演及び生徒によるミット打ちの実技体験を行った。



13 【宮古市立河南中学校】

- (1) 実施日時 令和2年12月9日(水) 9時40分から11時30分
- (2) 対象 中学3年生66名 【実技】
- (3) 派遣講師 太田 渉子 氏 (パラリンピアン) 山形県出身
(2006年トリノパラリンピック バイアスロン12.5km立位銅メダリスト
2010年バンクーバーパラリンピック クロスカントリー12.5km銀メダリスト
2020年東京パラリンピックではパラテコンドーの出場を目指す)

(4) 事業内容 (講演・実技)

- 9:40 ~ 開会及び講師紹介
9:45 ~ 講演「 挑戦って楽しい 」
10:30 ~ 休憩、準備
10:40 ~ 実技「 パラテコンドー 」
11:20 ~ 写真撮影
11:30 終了

(5) 講演内容

- ・ 自己紹介、オリンピック・パラリンピックのクイズ、スキーに取り組んだ幼少期
- ・ 自分の腕のこと、小学生時の先生との思い出、中学校で海外の大会に出場したこと
- ・ 高校生でパラリンピックに出場したこと、テコンドー競技について

(6) 実技内容

太田選手が取り組む、上肢障がい選手が参加できる「キョルギ」にあわせて、蹴り中心の実技を行った。二人組のウォームアップから始まり、丸めたマットへの回し蹴り等の蹴り技をわかりやすく解説していただきながら、楽しく取り組んだ。



14 【山田町立山田中学校】

(1) 実施日時 令和2年10月29日(木) 9時40分から11時30分

(2) 対象 講演：全学年316名 実技：3年生106名

(3) 派遣講師 千田 健太 氏 (オリンピック)

ロンドンオリンピックフェンシング競技 銀メダリスト

(4) 事業内容 (講演・実技)

9:40 ～ 開会及び講師紹介

9:45 ～ 講演「 フェンシングを通じて学んだこと 」

10:30 ～ 休憩、準備

10:40 ～ 実技「 フェンシング 」

11:25 ～ 写真撮影

11:30 終了

(5) 講演内容

別の競技に興味を持っていた幼少期を経て、利き手を変えてまで挑んだフェンシング競技から学んだことを基にお話いただいた。

自分の取組の甘さから一度チャンスを逃したものの、オリンピックに出場するという強い意志を持つこと、日本人選手が体の大きな外国人選手に挑むための様々な努力や工夫の大切さを感じ取ることができた。

生徒たちは、実物の銀メダルを手にとることができたので、目を輝かせて見つめていた。

(6) 実技内容

フェンシングの基本的動作を踏まえた、手ぬぐい取りのミニゲームや、実際に剣を用いて風船を割る体験を行った。



15 【岩泉町立小川中学校】

(1) 実施日時 令和2年11月9日(月) 13時15分から15時05分

(2) 対象 全学年33名

(3) 派遣講師 大久保 訓 氏 (作業療法士)
山内 貴雄 氏 (アスリートキャリアコンサルタント)

(4) 事業内容 (講演・実技)

13:15 ～ 開会及び講師紹介

13:20 ～ 講演・対談「スポーツ×支える」

14:20 ～ 体験活動

15:00 ～ 記念写真撮影

15:05 終了

(5) 講演内容

「スポーツ×支える」

- ・ 職業紹介
- ・ 現在の仕事に就いたきっかけ
- ・ スポーツとのかかわり
- ・ スポーツとの向き合い方、支えるということ
- ・ 東京2020大会から感じて欲しいこと、期待すること

(6) 実技内容

- ・ 作業療法士体験、障害体験、傾聴体験 (大久保氏)

作業療法士という職業をより深く知り体験することで、学校生活でも大切な、寄り添う、思いやる、想像するなど、共助の心を学んだ。

- ・ スポーツクロストーク (山内氏)

「あなたにとってのスポーツ」をテーマに生徒とクロストークを行い、スポーツに対して実際により深く考える機会となった。



16 【岩手県立不来方高等学校】

- (1) 実施日時 令和2年11月18日(水) 13時10分から14時15分
- (2) 対象 不来方高等学校、盛岡南高等学校、花巻南高等学校の体育学科、コース、体育学系の1・2年生240名
- (3) 派遣講師 芦田 創 氏 (パラリンピアン)
2016年リオデジャネイロパラリンピック
400mリレー 銅メダリスト

(4) 事業内容 (講演)

- 13:10 ~ 開会及び講師紹介
13:15 ~ 講演「より遠くへ」
14:00 ~ 質疑応答
14:10 ~ 写真撮影
14:15 終了



(5) 講演内容

幼少期にデスモイド腫瘍を発症し、約10年間闘病を続ける。スポーツがしたくても出来ず、速く走れることに憧れを抱いていた中、陸上競技と出会い、本格的に競技を始め自分の好きなことにチャレンジすることの重要性を知った。全力で体を動かすことにより心も生き活きとし、その間に腫瘍も無くなり「スポーツで病気に打ち勝った」と考えるようになった。

大学時代の恩師に「障害に甘えてるんじゃないか」と諭され、自分の右腕の障害を言い訳にして生きてきたのではないかと考えるようになった。自分ではコントロールできない問題を考えるのは時間のムダ → ハンデがある中でどれだけ頑張れるか【ポジティブなあきらめ】
→ 自分の可能性を信じ、陸上の世界で世界のトップを目指すことに決めた。

(6) 質疑応答

- ・ トップアスリートの条件【目標設定能力】いかに目標から逆算して、今を行動できるか。
- ・ スポーツだけではなく、仕事や勉強にも通じる。



Ⅲ 実践報告会

【開催概要】

1 目的

本県における「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」として、令和2年10月から12月にかけて、小学校・中学校・高等学校の推進校計16校に対し、オリンピック・パラリンピアン等の講師を派遣し、講義・実技等の取組を行った。

本報告会は、「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業（オリンピック・パラリンピック教育地域拠点）」（令和2年度）」において実施したオリンピック・パラリンピアン等の派遣及び、それらをきっかけとして各推進校が学校の特性に応じて企画し実施したオリンピック・パラリンピック教育の成果を発信するとともに、スポーツの価値への理解と多面的な教育的価値について、推進校のみならず県内の教員に対して広く情報を発信し、本県における持続可能なオリパラ教育の展開に資することを目的とし、開催したものである。

2 主催

岩手県教育委員会

3 協力機関

(1) 早稲田大学 オリンピック・パラリンピック教育研究センター

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業(全国中核拠点)」岩手県担当

(2) 岩手県文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック推進室

4 日時

令和3年2月1日（月）13時00分～16時15分

5 会場

サンセール盛岡 瑞雲

6 参加者

(1) 推進校担当教員 各校1名

(2) 参加希望する教員（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）

7 日程

(1) 開会（13:00）

(2) 挨拶（13:00～13:05）

岩手県教育委員会事務局保健体育課 総括課長 清川 義彦

(3) 推進校におけるオリパラ教育の取組紹介〔1〕（13:05～13:25）

(4) オンライン講演「スポーツを通じて子供たちに夢や希望を持たせる指導」（13:30～14:30）

日本パラリンピック委員会 委員長 河合 純一 氏

(5) 推進校におけるオリパラ教育の取組紹介〔2〕（14:40～14:55）

(6) 本県のホストタウンの紹介（14:55～15:15）

岩手県文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック推進室 小野寺 洋 氏

(7) オンライン講義「持続可能なオリパラ教育の効果的な実践について」（15:20～16:05）

早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター研究員 岡田 悠佑 氏

(8) 連絡（16:05～16:15）

(9) 閉会（16:15）

【内容】

令和3年2月1日（月）、サンセール盛岡において「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業（オリンピック・パラリンピック教育地域拠点）」（令和2年度）実践報告会を開催した。

推進校における取組の紹介では、例年はグループワークの中で実践報告・協議を行い、全体共有により共通理解を深めていたが、今年は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、事前に推進校から提出された報告書をもとに、事務局から今年度の実践事例の紹介や取組の傾向等について説明を行った。併せて、県文化スポーツ部オリンピック・パラリンピック推進室より、本県で各種ホストタウン（ホストタウン、復興ありがとうホストタウン、共生社会ホストタウン）に登録している市町村についての情報や、学校教育と関連した国際交流の取組事例について紹介いただいた。

続いて、オンライン講演会では「スポーツを通じて子供たちに夢や希望を持たせる指導」と題して、日本パラリンピック委員会委員長の河合純一様より、学校におけるオリパラ教育の意義や国際パラリンピック委員会認定教材「I' mPOSSIBLE」の活用等について講演をしていただいた。

また、オンライン講義では「持続可能なオリパラ教育の効果的な実践について」と題して、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの岡田悠佑研究員から、他県も含めた今年度の実績の紹介や来年度に向けた取組の要点等について講義をしていただき、出席した学校の教員にとっては来年度のオリパラ教育の展開に向けて示唆をいただく有意義な機会となった。



IV オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート

オリンピック・パラリンピック教育に関するアンケート

1 全体（小・中・高）

質問 1	オリンピックに興味がありますか					
		①とてもそう思う	②そう思う	③あまりそう思わない	④そう思わない	合計人数
	人数	345	309	88	23	765
	割合	45.1%	40.4%	11.5%	3.0%	
		85.5%		14.5%		
質問 2	パラリンピックに興味がありますか					
		①とてもそう思う	②そう思う	③あまりそう思わない	④そう思わない	合計人数
	人数	289	327	118	31	765
	割合	37.8%	42.7%	15.4%	4.1%	
		80.5%		19.5%		
質問 3	オリンピック・パラリンピック並びにスポーツの意味や大切さに対する理解・関心が高まりましたか					
		①とてもそう思う	②そう思う	③あまりそう思わない	④そう思わない	合計人数
	人数	338	312	54	18	722
	割合	46.8%	43.2%	7.5%	2.5%	
		90.0%		10.0%		
質問 4	スポーツをすることで、自分で考えて行動することができたり、親しい友だちを作ったりすることができると思えますか					
		①とてもそう思う	②そう思う	③あまりそう思わない	④そう思わない	合計人数
	人数	393	263	55	11	722
	割合	54.4%	36.4%	7.6%	1.5%	
		90.9%		9.1%		
質問 5	お年寄りや障がいのある人と交流したいと思いますか					
		①とてもそう思う	②そう思う	③あまりそう思わない	④そう思わない	合計人数
	人数	264	350	126	24	764
	割合	34.6%	45.8%	16.5%	3.1%	
		80.4%		19.6%		
質問 6	運動やスポーツをすること、見ることに興味がありますか					
		①とてもそう思う	②そう思う	③あまりそう思わない	④そう思わない	合計人数
	人数	463	208	77	16	764
	割合	60.6%	27.2%	10.1%	2.1%	
		87.8%		12.2%		